

# 京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(3年計画の2年目)

## 1. 研究課題

中国生活文化の思想史

The Intellectual History of Chinese Lifestyle and Culture

## 2. 研究代表者氏名

名和 敏光

NAWA, Toshimitsu

## 3. 研究期間

2023年4月-2026年3月(2年目)

## 4. 研究目的

中国の生活文化は我々日本文化へ多大な影響を与えていていることは言を俟たない。その様相は共時的に各時代の日中交流と大きな関りがあり、また日中それぞれにおいても通時的に多様な変化を遂げている。本研究では、1つには様々な分野の研究者を招いて生活文化に関わる専門知識を講演してもらい、参加者で議論をすることにより学際的に班員の専門分野に新たな刺激をもたらすことを目的とする。(講演者は班員の関係者、特に若手研究者へ積極的に依頼するとともに、公募で募集することも予定している。) 2つに、1999年5月～9月に発見・発掘が行われ2020年11月に報告書が出版された沅陵虎溪山一号漢墓漢簡(以下虎溪山漢簡と略称)に調理に関わる竹簡『食方』が含まれていたことから、研読会を行い詳細に検討することを目的とする。これまで調理や食材の研究は伝世文献に基づくものだけであったが、虎溪山漢簡『食方』の発見により、漢初の調理や食材に関する新たな知見を得ることができる。

Chinese lifestyle and culture have greatly influenced Japanese culture. This aspect of Chinese lifestyle and culture is closely related to Japan-China exchanges in each period, and has also undergone various changes over time in both countries. In this study, researchers from various fields will be invited to share their expertise and lecture on lifestyle and culture. The first objective is to bring a new stimulus to the specialized fields of the group members in an interdisciplinary manner through discussions among the participants. (Speakers will be actively recruited from among the members of the group, especially young researchers, and the participation of the public will also be solicited.) The second objective of this project is to hold a reading session to examine in detail the Han bamboo script "Shifang" found in the No.1 Han Tomb in Yuanling Huxishan, which was discovered and excavated between May and

September 1999 and reported on in November 2020. Until now, research on food preparation and ingredients has been based solely on historical documents, but the discovery of the Huxishan Han bamboo script "Shifang" will provide new insights into food preparation and ingredients in the early Han Dynasty.

## 5. 本年度の研究実施状況

本年度は研究会および虎渓山漢簡「食方」読書会を各 10 回、うち第 19 回研究会は、国内外からゲスト講演者を招いて国際研究集会「漢魏の文字と文物—生活文化の視座から—」として開催した。これを含め計 17 題の研究発表もしくは講演を実施し、賓客との食事儀礼を記した戦国竹簡『大夫食礼』『大夫食礼記』の文献研究、実験に基づく「食方」調理記事の検証、古代では日常着の素材であるアサの生産・流通、広範な生活習俗に影響を及ぼす五行や占術理論、近世の生活に根ざした医療文化、殷周金文の書写技術と字体、明清の文房文化など、大学院生や在野研究者も含む多分野の研究者による成果報告と討議がおこなわれた。ゲスト講演者など班員外の参加者と班員との間で、医学と被服学、博物学と飲食史など、分野を跨いだ交流により新たな学問課題が見いだされ、共同研究の萌芽が生じていることも本年度の重要な成果である。

## 6. 本年度の研究実施内容

- 2024.4.6 第 11 回研究会 『大夫食礼(記)』について 発表者 末永高康 広島大学
- 2024.4.7 第 9 回「食方」読書会 第九九簡訳注 発表者 小倉聖 大東文化大学 第八六、九〇、一三一簡訳注 発表者 伊藤裕水 山口大学
- 2024.5.11 第 12 回研究会 五行の生序について 発表者 平澤歩 東京大学
- 2024.5.12 10 回「食方」読書会 第一〇簡訳注 発表者 伊藤裕水 山口大学
- 2024.6.1 第 13 回研究会 『食方』の炊飯における吸水方法について 発表者 伊藤裕水 山口大学 契丹の金工技術—日本所蔵コレクション資料の製作技術観察と金属成分分析から一 発表者 鈴木舞 山口大学 発表者 飯塚義之 台湾中央研究院地球科学研究所
- 2024.6.2 第 11 回「食方」読書会 第二一・一〇〇簡訳注 発表者 梶島雅弘 和歌山工業高等専門学校
- 2024.7.14 第 14 回研究会 四柱推命の歴史 発表者 吉村美香 愛知大学
- 2024.7.15 第 12 回「食方」読書会 第一一〇簡訳注 発表者 梶島雅弘 和歌山工業高等専門学校
- 2024.8.3 第 13 回「食方」読書会 第一七七・二〇二・二三四・二六八・二〇簡訳注 発表者 梶島雅弘 和歌山工業高等専門学校
- 2024.8.3 第 15 回研究会 惠方巻と占術理論 発表者 小倉聖 大東文化大学
- 2024.10.13 第 14 回「食方」読書会 第一九三・二六〇・七〇・八〇簡訳注 発表者 高井た

かね 京都大学人文科学研究所

- 2024.10.13 第 16 回研究会 『本草蒙筌』考—明代における実用的本草の再評価— 発表者  
西村陽菜 京都大学文学研究科 五一広場東漢簡牘にみるアサの生産と流通 発  
表者 鈴木直美 明治大学
- 2024.11.2 第 17 回研究会 清代満州貴族社会における女子と道教の関係について 発表者  
愛新覚羅闡和 (AISINGIORO KAIHE) 立命館大学 カザフスタンにおける日  
本研究：歴史、現在、未来 発表者 Duken Massimkhanuly カザフスタン共和国  
R. B. Suleimenov 東洋学研究所 カザフスタン政府国費研究プロジェクト『日本  
のテュリク (突厥) 研究について：過去、現在そして未来へ』紹介 発表者 Duken  
Massimkhanuly カザフスタン共和国 R. B. Suleimenov 東洋学研究所
- 2024.11.3 第 15 回「食方」読書会 第二五簡訳注 発表者 高井たかね 京都大学人文科学研  
究所
- 2024.12.7 第 18 回研究会 徽州における伝統的な製墨業の現状について～銘墨復元事業を  
通じて 発表者 新井泰昭 曹素功藝粟齋・(有)電数 殷周金文の書体変遷とその  
背景—鋳造技術の観点から— 発表者 山本堯 泉屋博古館
- 2024.12.8 第 16 回「食方」読書会 第九一簡訳注 発表者 高井たかね 京都大学人文科学研  
究所
- 2025.2.1 国際研究集会「漢魏の文字と文物—生活文化の視座から—」(第 19 回研究会) 漢  
魏文字研究三題 発表者 魏宜輝 南京大学 青島土山屯 M147 出土《衣物名》研究  
発表者 劉海宇 山東大学 馬王堆一号漢墓出土の長衣の構成と着装について 発  
表者 水野夏子 大阪樟蔭女子大学
- 2025.2.2 第 17 回「食方」読書会 第五四・五六・二六六・六四・五三簡訳注 発表者 名和  
敏光 山梨県立大学
- 2025.2.2 人文科学研究所分館書庫見学
- 2025.3.8 第 20 回研究会 山西晋祠聖母殿外壁に見える薬方について 発表者 霍坤 浙江大  
学
- 2025.3.9 第 18 回「食方」読書会 第五四・五六・二六六・六四・五三簡訳注 (続) 発表者  
名和敏光 山梨県立大学 第九四・二三・二四・二六・二七・九五・四〇・四三簡校  
訂 発表者 高井たかね 京都大学人文科学研究所

## 7. 共同研究会に関連した公表実績

- ・国際研究集会「漢魏の文字と文物—生活文化の視座から—」

日時：2025 年 2 月 1 日 (土) 13:00～18:00

会場：京都大学人文科学研究所、本館 4 階、大会議室 (オンライン併用)

講演：魏宜輝 (南京大学文学院)「漢魏文字研究三題」

劉海宇 (山東大学文化遺産研究院)「青島土山屯 M147 出土《衣物名》研究」

水野夏子(大阪樟蔭女子大学学芸学部)「馬王堆一号漢墓出土の長衣の構成と着装について」漢魏時代の文字史料および文物研究に関する研究報告、および最新の考古学調査による文字史料・文物資料の紹介がおこなわれ、これらについて生活文化史の観点から議論した。また、これにあわせて分館書庫見学会をおこなった。

## 8. 研究班員

所内

高井たかね、池田巧、野原将揮、平岡隆二

学内

成高雅 (CHENG Gaoya) (国際高等教育院)、西嶋佑太郎(人間・環境学研究科)

学外

名和敏光(山梨県立大学国際政策学部)、伊藤裕水(山口大学人文学部)、浦山きか(東北大学史料館)、樋島雅弘(和歌山工業高専総合教育科)、末永高康(広島大学人間社会科学研究科(文) )、塚本明日香(岐阜大学地域協学センター)、西山尚志(埼玉大学教養学部)、平澤歩(東京大学大学院人文社会系研究科)、廣瀬薰雄(岩手大学平泉文化研究センター)、巣敏裕(岩手大学教育学部)、劉青 (LIU Qing) (弘前大学人間社会学部)、菊池孝太朗(大阪大学大学院文学研究科)、長澤文彩(東京藝術大学音楽研究科)、池内早紀子(大阪府立大学大学院人間社会システム研究科)、愛新覚羅闔和 (KAIHE) (立命館大学衣笠総合研究機構)、大形徹(立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所 )、川浩二(立命館大学 言語教育センター )、小倉聖(大東文化大学 文学部)、柿沼陽平(早稲田大学文学学術院)、小山瞳(関西大学)、島山奈緒子(立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所 )、清水浩子(大正大学)、高橋あやの(大東文化大学東洋研究所)、武田時昌(関西医療大学)、奈良場勝(國學院大學栃木短期大学)、深澤瞳(大妻女子大学)、水口幹記(立命館大学文学部)、水野夏子(大阪樟蔭女子大学)、宮崎順子(関西大学)、宮島 和也(成蹊大学)、宮本紗代(立命館大学)、六車楓(立命館大学)、森和(杏林大学外国語学部)、山崎(喜多)藍(青山学院大学文学部)、吉村美香(愛知大学)、豊田裕章(国際日本文化研究センター)、新井泰昭(曹素功藝粟斎)、永塚憲治(公益財団法人 研医会)、村上陽子(防災専門図書館)、周祖亮 (ZHOU Zuliang) (広西中医薬大学)、鄭宰相 (JUNG Jaesang) (円光デジタル大学)、程少軒 (CHENG Shaoxuan) (南京大学文学院)、高潔 (GAO Jie) (南京大学文学院)、張馨月 (Zhang Xinyue) (山東中医薬大学)、平地治美(和光鍼灸治療院・漢方薬局)

## 9. 共同利用・共同研究の参加状況

10. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

	共同利用・共同研究による成果として発表された論文数		うち国際学術誌掲載論文数	
	0	0	0	0
①人文研に所属する者のみの論文(単著・共著)	0		0	
②人文研に所属する者と人文研以外の国内の機関に所属する者の論文(共著)	0	(0)	0	(0)
③人文研以外の国内の機関に所属する者のみの論文(単著・共著)	0		0	
④人文研を含む国内の機関に所属する者と国外の機関に所属する者の論文(共著)	0	(0)	0	(0)
⑤国外の機関に所属する者のみの論文(単著・共著)	0		0	

本年度発表されたインパクトファクターを用いることが適當ではない分野等

	雑誌名	掲載論文数	掲載年月	論文名	発表者名
1	<i>Chinese Medicine and Culture</i> , 7(3)	1	2024.4	The "Ukiyo" of Moxibustion Reflected in the <i>Ukiyo-e</i>	姜姫
2	도교문화연구 (道教文化研究) 60 輯	1	2024.5	무상단어록(無相壇語錄) 역주 (無相壇語錄譯註)	金志弦・鄭宰相
3	写本文献与東亜伝統医学”学術検討会論文集	1	2024.6	關於新发现的房中术书《婚姻秘术抄》与艳本《艳颜色体之木》—卷子本《医心方》“房内”的所在—	永塚憲治
4	医譚 1191 号	1	2024.6	新出の艶本『風流色図法師』卷下の内景図について	永塚憲治
5	医薬の門 vol.64(2)	1	2024.6	世界有数のコレクションを有する～英国図書館～	永塚憲治
6	學林 78 号	1	2024.6	清華簡『湯在啻門』の身體と生命、疾病：「成人」を中心に	六車楓
7	漢字之窓	1	2024.6	日本における『論語』の受容について—「懼」の解釈—	重信あゆみ

8	人文 71号	1	2024.6	虎渓山漢簡「食方」読書会	高井たかね
9	建築知識 2024年7月号	1	2024.7	(監修)坐様式の変遷・明清家具	高井たかね
10	中国出土資料研究 28集	1	2024.7	清華簡『大夫食礼』初探	末永高康
11	慶星大学校韓国漢字研究所、河永三編『漢字研究』総39輯	1	2024.8	日本江戸時代漢字文本《小野篁歌字盡》的試驗論證	<u>重信あゆみ</u>
12	建築雑誌 第139集第1791号	1	2024.8	建築アーカイブの現在⑧ 京都大学研究資源アーカイブ	高井たかね・ 齋藤歩
13	檀国大学校日本研究所『日本学研究』73輯	1	2024.9	日本における「学び」の解釈 -『論語』の学而篇の「學」の解釈を例として-	<u>重信あゆみ</u>
14	日本医史学雑誌 70(3)	1	2024.9	2023年NHK朝ドラ『らんまん』の牧野富太郎と本草学	吉村美香
15	東洋研究 233号	1	2024.11	中国兵学思想史における鬼神・廟の認識と位置	樋島雅弘
16	紫禁城 2024(12)	1	2024.12	印笼里的玲珑世界——浅谈古代便携药文化的东传与变迁	<u>姜姍</u>
17	世界漢字通報 Vol.7, No.2	1	2024.12	The Role of the Chinese Classics in Early Japan	<u>重信あゆみ</u>
18	医薬の門 vol64. (3)・(4)	1	2024.12	上海中医薬大図書館所蔵の稿本・抄本の善本特展「鉛翰照章」について～上海中医薬大図書館～	永塚憲治
19	季刊内経 2024年冬号	1	2024.12	『天回医簡』の「因病所在」から『千金要方』の「阿是之法」まで	<u>姜姍</u>
20	日本医史学雑誌 70(4)	2	2024.12	光明皇后と香薬の洗浴修法	<u>安部郁子</u>
21	日文研 2025, (69)	1	2025.2	阿是穴の伯楽一岡本一抱とその理論的革新	<u>姜姍</u>

22	医薬の門 vol.65(1)	1	2025.3	中国伝統医学の歴史が一望できる～上海中医薬博物館～	永塚憲治
23	皇學館史学 40	1	2025.3	奈良県明日香村西橘遺跡出土「十八種」木簡の来歴	多田伊織
24	中國思想史研究 46号	1	2025.3	「情は吾の有する所に非ず」～『荀子』性情論の再考	鄭宰相
25	日本道教学会編『道教文化と日本 陰陽道・神道・修験道』勉誠社	1	2025.3	平安時代の蓍龜占について	奈良場勝
26	人文学論集 第43集	1	2025.3	中国近世の養生延寿について：『三元參贊延寿書』を中心	劉青

#### 11. 本年度共同利用・共同研究による成果として発行した研究書

	研究書の名称	編著者名	発行年月	出版社名	国際共著
1	中国少年児童百科全書：医学史話	姜姍, 張大慶	2024.4	少年児童出版社	
2	伊藤圭介日記 第30集	岩崎鐵志・加藤信重・河村典久・蒲原政幸・幸田正孝・財部香枝・田中純子・膝館寿巳恵・松本朋子・山内一信・横山進・吉村美香	2024.12	名古屋市東山植物園	

#### 12. 本年度博士学位を取得した学生の数

2 (学内1・学外1)

#### 13. 次年度の研究実施計画

本年度と同様に年間各10回程度の研究発表会および「食方」読書会を開催する予定であり、研究期間の最終年度を迎えるにあたり、成果論文集の刊行準備として、班員による論文執筆の予備発表を中心に研究発表会を実施する。予定されている具体的な発表テーマとしては、明代用類書中の薬物、朝庭の空間形成にみられる思想、正史にみえる住宅関連記事の分析、古代の身体観・身体知識と飲食習俗などがある。また、8月には研究セミナー「中国生活文化史研究の諸相」を開催し、若手研究者の実験的手法による研究成果や、本研究班で生まれた分

野横断的な共同研究の課題と構想等を幅広く発信する機会を設ける。

「食方」読書会では引き続き訳注の検討をおこない、共同研究期間終了にむけて校訂文、訳注発表の準備をおこなう。

#### 14. 次年度の経費

		開催回数	延べ人数	支出予定額（円）
国内旅費	一般旅費			
	招へい旅費	20	20	1000000
海外旅費	一般旅費			
	招へい旅費			
謝金（講演謝金、研究協力者金、その他の謝金）				
消耗品等経費				
その他				
合計				1000000

#### 15. 研究成果公表計画および今後の展開等

本研究班では研究期間終了後に成果論文集の刊行を目指し、すでに編集、刊行の準備作業を始めているほか、次年度の研究発表会では、班員の論文執筆のための準備作業という位置づけで研究発表をおこなう。8月には研究セミナー「中国生活文化史研究の諸相」を開催し、若手研究者を中心に、共同研究での成果を幅広く発信する。「食方」読書会で検討した校訂文・訳注原稿についても『東方学報』へ掲載する予定である。